

平成 25 年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書

平成 26 年 8 月

鳩山町教育委員会

目 次

- 1 はじめに
- 2 点検評価の対象及び方法
- 3 鳩山町教育振興基本計画の策定
- 4 鳩山町教育行政の重点施策
- 5 重点施策に基づき取り組んだ主な事業と評価
 - (1) 確かな学力と自立する力の育成
 - (2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
 - (3) 質の高い教育環境の整備
 - (4) 家庭・地域社会と連携した教育の推進
 - (5) 生涯学習と生涯スポーツの振興
 - (6) 文化の振興と文化財の保存・継承・活用の推進
- 6 おわりに

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなりました。

この報告書は、鳩山町教育委員会が同法の規定に基づき、毎年度教育行政の基本方針として定めている鳩山町教育行政重点施策に関し、平成 25 年度に重点的に取り組んだ事業について、点検及び評価を実施した結果をとりまとめたものです。

2 点検評価の対象及び方法

鳩山町では、毎年度「教育行政重点施策及び努力点」を定めております。この重点施策は、教育委員会がその年度に重点的に取り組むべき施策として定めており、これに基づき、教育委員会が自ら点検評価を実施するものです。

また、法第 27 条第 2 項の規定に基づく、有識者の活用については、学識経験者 3 名から意見をいただきました。

氏名	経歴等
中島可南子	現 学校給食センター運営委員
戸口 健治	現 社会教育委員
高見みな子	現 主任 児童委員

3 鳩山町教育振興基本計画の策定

平成 18 年 12 月に教育基本法が改正され、新しい時代の教育の基本理念が示され、同法の中で、「地方公共団体は、その地域における教育の振興を図るため、その実情に応じた教育に関する施策を策定し、実施しなければならない」とし、また、「国や埼玉県が定める計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう努力しなければならない」ことが新たに規定されました。鳩山町教育委員会では、平成 23 年度に公募委員を含む「鳩山町教育振興基本計画検討委員会」で検討いただきながら、今後の 10 年間を見据えた鳩山町の教育の姿「基本方針」を示すとともに、今後 5 年間に実施すべき教育施策や事業を具体的に示すものとして「鳩山町教育振興基本計画」を策定しました。

4 鳩山町教育行政の重点施策

【基本理念】

『意欲を育み 心をつなぐ』

鳩山の子どもの実態、鳩山町教育振興基本計画を踏まえ、未来に希望を持ち、心豊かに、力強く生きていく鳩山の子を育てるために「意欲を育み 心をつなぐ」を基本理念とする。

1 意欲を育むために

愛情（人間愛）を基本に、学び合い・触れ合い・認め合い・励まし合い、心安らぐ居場所を作り、家庭・学校・地域で、意欲を育む。

2 心をつなぐために

一緒に行動（協働）することを基本に、共に信じ、喜び、絆を深めながら愛情を持って見守ることで、心をつなぐ。

3 意欲と心をつなぐために

言葉の力で「意欲を育み、心を拓く」前向きな声掛けをする。特に、「おはよう、ありがとう、ごめんなさい、どうぞ、どういたしまして」の言葉を大切に指導する。

【重点施策】

- I 確かな学力と自立する力の育成
- II 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
- III 質の高い教育環境の整備
- IV 家庭・地域社会と連携した教育の推進
- V 生涯学習と生涯スポーツの振興
- VI 文化の振興と文化財の保存・継承・活用の推進

【努力点】

(1) 確かな学力と自立する力の育成

- ① 創意を生かした特色ある幼稚園・学校づくりの推進
- ② 学力向上・指導方法の改善など「わかる授業」の研究
- ③ 少人数学習・少人数学級編制の推進
- ④ 特別支援教育の推進
- ⑤ キャリア教育の推進

(2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

- ① 豊かな心を育む教育の推進
- ② 発達段階に応じた健康教育の推進
- ③ いじめ・不登校問題等学校教育相談体制の充実

- ④ 安全・安心な食育活動の推進・給食センターの整備
- (3) 質の高い教育環境の整備
 - ① 学校施設の改修・バリアフリー化の実施
 - ② ICT機器を活用した教育環境の整備
 - (4) 家庭・地域社会と連携した教育の推進
 - ① 家庭教育支援体制の充実
 - ② 学校応援団活動の推進
 - ③ P T A等の各種諸団体との連携強化
 - (5) 生涯学習と生涯スポーツの振興
 - ① 多様な生涯学習の機会の提供と支援
 - ② 文化芸術活動の振興
 - ③ スポーツの振興
 - ④ 地域の人材・専門家などの積極的な活用
 - ⑤ 文化施設・スポーツ施設等の整備・維持管理
 - ⑥ 図書館サービス事業の推進
 - (6) 文化の振興と文化財の保存・継承・活用の推進
 - ① 南比企窯跡群の国指定文化財への指定推進
 - ② 各種文化財の調査研究
 - ③ 無形文化財の保存・継承
 - ④ 多世代活動交流センター展示室の活用
 - ⑤ 学校教育・生涯学習との連携

5 重点施策に基づき取り組んだ主な事業と評価

(1) 確かな学力と自立する力の育成

① 創意を生かした特色ある幼稚園・学校づくりの推進

鳩山町の公立幼稚園、各小中学校ではそれぞれに研究課題を設定して、研究を行い、特色ある教育活動を展開しました。教育委員会は適宜サポートする体制で関わっています。

平成25年度の公立幼稚園・各小中学校の研究課題は以下のとおりです。

鳩山幼稚園 「わくわく タッチで パワー全開」

…保育内容と活動量の観点から、幼児の動きを考える…

亀井小学校 「学び合いを通し、相互に学力を向上する児童の育成」

…算数科の学習を通して…

今宿小学校 「言語活動の充実を目指した学習展開の工夫」

…国語科と外国語活動の指導を通して…

鳩山小学校 「豊かな心を育てる言語活動の推進」

…問題解決力を高める読解力・表現力の育成を中心に…

鳩山中学校 「自ら学び、考え、発表する生徒の育成をめざして」

…授業（本時）のねらいを達成するための豊かな言語活動のあり方…

②学力向上・指導方法の改善など「わかる授業」の研究

「教育に関する3つの達成目標」を幼稚園、各小中学校の重点目標として位置づけ、自校（園）の子どもたちの実態把握から課題設定を行い、取り組みました。特に、基礎的・基本的内容に係わる部分では、各学校の年間指導計画に明示して教職員が重点課題として学力向上に取り組みました。

教育委員会では町費任用の学習支援講師として幼稚園に1名、小学校に5名の町費任用の学習支援講師と特別支援教育支援員5名を配置するとともに、小学校に英語指導助手2名を配置するなど人的措置を講じてバックアップを行っています。

また、中学校ではすべての学年において「35人学級」を実現するために町費による少人数学級支援講師4名を配置し、きめ細やかな学習指導・生活指導ができる環境づくりを進めました。

毎時間の授業を充実させ、児童生徒に確かな学力をつけることが教師の第一義的な役割であることを鑑み、教師の指導力向上を目指して教育指導業務を充実させました。例として、昨年度からの新規事業として、若手教員研修会、小学校外国語活動研修会をはじめとする研修を充実させたことや、転入職員の授業参観、各校授業研究会での指導、教育委員会訪問など、各校の訪問指導を充実させました。その中で、一時間の授業の「目標・めあて」を明確にし、「児童生徒のことばでまとめさせる」という児童生徒が成就感を味わえる「わかる授業」の基本形を示し、そこに至るための指導方法の工夫や改善を促す指導を行なってきました。また、鳩山町学力向上推進委員会で作成した、基礎・基本の充実をはかるドリル学習のソフトを、町内全校で引き続き実施することで、3つの達成目標の検証では、「計算」について高い成果を上げることができました。課題であった「読み書き」の「書く活動」についても町内全校で統一した取組を行い、成果を上げました。

③少人数学習・少人数学級編製の推進

教育委員会では、平成25年度、幼稚園並びに小学校に町費任用の学習支援講師6名、英語指導助手2名を配置するなど人的措置を講じてバックアッ

プを行いました。

また、中学校ではすべての学年において「35 人学級」を実現するために町費による少人数学級支援講師 4 名を配置し、きめ細やかな学習指導・生活指導ができる環境づくりを進めました。この措置によって、一人ひとりの生徒に目が届きやすくなり、いじめや非行などの問題行動の抑制に大きな成果を上げるとともに、落ち着いて学習に取り組める環境が整うことで、県の学習状況調査でも上位の成果を出しています。

④特別支援教育の推進

平成 25 年度も小学校に特別支援教育支援員 6 名を配置して特別に支援を必要とする児童へのきめ細やかな指導支援を行っています。また、特別支援学級の新担任となった教員には研修に参加させ、指導力の向上にも努めました。また、県立毛呂山特別支援学校の特別支援学級コーディネーターとの連携を密に行うことで、より専門的な見地からの指導支援も行うことができました。これらの措置により、軽度発達障害の児童へのよりこまやかな個別の支援が充実し、教育効果を上げています。

⑤キャリア教育の推進

小学校段階、中学校の学年ごとのキャリア発達の段階に合わせ、計画的で系統的にキャリア教育を進めています。中学校 1 年生では地域の協力を得ながら 3 日間の職場体験学習を実施し、事前学習、事後学習を含めていねいな指導が行われています。生徒は、これらの体験の中で、達成感や満足感、自信や自己有用感を獲得し、働くことや学ぶことへの意欲につながる有意義な学習が行われました。

【評価】

①創意を生かした特色ある幼稚園・学校づくりの推進

鳩山町の公立幼稚園、各小中学校では各園各校の幼児、児童、生徒や地域の実態を的確に把握し、課題を設定して研究に取り組みました。いずれの園や学校も創意を生かした特色ある教育活動を展開することで特色ある園づくり、学校づくりが行われました。

②学力向上・指導方法の改善など「わかる授業」の研究

若手教員研修会の継続実施、小学校外国語活動研修会をはじめとする研修を充実させたことや、転入職員の授業参観、各校授業研究会での指導、教育委員会訪問など、各校の訪問指導を充実させました。その中で、一時間の授業の「目標・めあて」を明確にし、「児童生徒のことばでまとめさせる」と

いう児童生徒が成就感を味わえる「わかる授業」の基本形を示し、そこに至るための指導方法の工夫や改善を促す指導を行なってきました。その結果、教師の指導力の向上はもちろん、「授業で勝負できる教師」としてのプロ意識も高めることができました。

③少人数学習・少人数学級編製の推進

この措置によって、一人ひとりの生徒に目が届きやすくなり、いじめや非行などの問題行動の抑制に大きな成果を上げています。そして、落ち着いた学校生活の中で集中して学習に取り組める環境が整うことで、県の学習状況調査でも上位の成果を出しています。

④特別支援教育の推進

各小学校に配置した特別支援教育支援員の人的措置、特別支援学級の新担任となった教員の研修への参加、県立毛呂山特別支援学校の特別支援学級コーディネーターを通じた専門機関との連携により、軽度発達障害の児童へのよりこまやかな個別の支援が充実し、教育効果を上げています。

また、年間4回の就学支援委員会を開催し、園児、児童・生徒一人ひとりに合った就学先をアドバイスできる体制のもと、就学について支援を行いました。

⑤キャリア教育の推進

小学校、中学校の学年ごとのキャリア発達の段階に合わせ、計画的で系統的にキャリア教育を進めることで将来の自立へ向けた、健全な職業観、勤労観を醸成する指導が行われました。進路学習はもとより、道徳などでも人間としての生き方についての自覚を深める学習が計画的になされています。

(2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

①豊かな心を育む教育の推進

各学校で、日々の学校の教育活動全体、豊かな体験活動をとおして道徳的な心情、判断力、実践意欲や態度を育てています。道徳・学活の時間の確保と充実を図り、各校の創意と工夫を生かした豊かな体験活動を展開することで、児童生徒に体験の中で実践的・経験的に道徳的心情の醸成を図ってきました。

②発達段階に応じた健康教育の推進

鳩山町体力向上推進委員会の活動を充実させ、体力向上、健康教育に組織的に取り組みました。心身ともに健康な各学校における健康教育の全体計画

を作成し、系統的・計画的に発達段階に応じた健康教育を推進しました。さらに、学校保健委員会等に外部講師を招き「健康教育」についての教職員・保護者対象の講習会を開催したり、歯科衛生士を招いた児童対象の歯科授業を展開したりする等、健康教育の充実を目指した取り組みを行いました。

③いじめ・不登校問題等学校教育相談体制の充実

鳩山町教育相談室専門員等会議をとおして、小・中での情報連携を行い、積極的な相談体制を作り、いじめの早期発見、早期対応を図れるようにしました。

また、いじめの日常の実態把握のために年3回のアンケートや個別の面談を行いました。さらに、県から中学校に派遣されるスクールカウンセラーの計画的な活用を図りました。

④安全・安心な食育活動の推進・給食センターの整備

全学校で「早寝・早起き・朝ごはん」を合い言葉に、朝食欠食児童の減少に取り組みました。また、地域の農産物を給食に取り入れ、食材について理解することにより郷土の文化を知らせました。食への関心を高めるため、給食集会でエプロンシアターを行い、食への正しい情報を伝えました。

学校給食の放射線量測定を行い、児童生徒に安全・安心な給食を提供しました。また、昨年度立ち上げた給食センター施設の更新についての「新たな給食のありかた検討委員会」で、調査・検討をしました。

【評価】

①豊かな心を育む教育の推進

地域や家庭の協力を得ながら、各校で創意と工夫を生かした豊かな体験活動を展開することで、児童生徒に体験の中で実践的・経験的に道徳的心情の醸成を図ってきました。学校を中心に地域全体で子どもを育てる体制づくりがなされてきています。

教育委員会としては、児童生徒一人ひとりの発達段階に合わせた学校教育における人権教育の実践や社会教育分野における人権教育を関係機関や団体などと協力連携し、計画的に諸事業を推進しています。

その結果、学校における人権教育の成果として教職員などの指導により、児童生徒が相互に協力し他人を思いやる気持ちを身につけ、行動できるようになったことについては評価できます。

また、いじめやそれに類似した行動が皆無とは言えないと思われるため、各学校での人権教育推進組織や教育相談体制の充実・強化に努めるとともに、学校・家庭・地域などが連携して一人ひとりの児童生徒の状況を踏まえ、早

期に対応し解決する必要があります。

②発達段階に応じた健康教育の推進

鳩山町体力向上推進委員会の活動を充実させ、体力向上、健康教育に町内の学校全体で足並みをそろえて組織的に取り組むことができました。また、各学校における健康教育の全体計画を作成し、系統的・計画的に発達段階に応じた健康教育が進められました。

③いじめ・不登校問題等学校教育相談体制の充実

鳩山町教育相談室専門員等会議を5回行い、小・中での情報連携を密に行い、積極的な相談体制を作り、いじめの早期発見、早期対応はもちろん、不登校や問題行動の情報の共有化も図れるようにしました。また、県から中学校に派遣されるスクールカウンセラーの勤務日に合わせて、面談を設定したり、教職員の研修の講師とするなど計画的かつ効果的に活用しました。

④安全・安心な食育活動の推進・給食センターの整備

学校給食センターでは、全学校で「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、朝食欠食児童の減少に取り組みました。

鳩山町の農産物を給食に取り入れ、食材について理解することにより郷土の文化を知らせました。食への関心を高めるため、給食集会や、試食会で講話を行い、食への正しい情報を伝えました。また、子どもの食育を考えるプロジェクト「はとっ子給食レシコンテスト」の優秀作品を給食に提供し児童・生徒の食に関する意識の高揚を図りました。

学校給食の食材3品と給食一食分の放射線量測定を行い、児童・生徒に安全安心な給食を提供しました。また、測定結果を鳩山町ホームページに公表しました。

学校給食センターは、建築後32年が経過し施設や設備の老朽化が進んでいる状態です。今後とも安全でおいしい給食を提供するためには最新の衛生管理基準に適合した施設・設備への更新が緊急の課題です。これからの学校給食のあり方と施設について、将来構想を検討しました。「学校給食の新たなあり方調査検討委員会」において、平成25年度、学校給食の供給方式、アレルギー対応、先進地視察等を検討し、「鳩山町における学校給食の新たなあり方についての提言書」をまとめ、教育委員会に提出しました。

(3) 質の高い教育環境の整備

①学校施設の改修・バリアフリー化の実施

学習環境の整備・充実としては、亀井小学校のコンビネーション遊具の改修工事や今宿小学校の防球ネット改修工事、鳩山小学校の学校菜園設置工事、鳩山中学校の武道場増設工事などを行いました。また、国の補助金を有効的に活用し、小中学校のプール改築工事や幼稚園を含む空調設備設置工事、中学校の屋内運動場と渡り廊下の大規模改造工事など（何れも平成 24 年度からの繰越事業）を行うことができました。

学校名	主な学校施設改修工事
亀井小学校	コンビネーション遊具改修工事 校庭遊具撤去工事 プール改築工事（H24→H25） 空調設備設置工事（H24→H25）
今宿小学校	防球ネット改修工事 保健室前スロープ設置工事 プール改築工事（H24→H25） 空調設備設置工事（H24→H25）
鳩山小学校	学校菜園設置工事 職員駐車場照明灯設置工事 空調設備設置工事（H24→H25）
鳩山中学校	武道場増設工事 プレハブ物置撤去工事 第2グラウンド門扉塗装工事 ベンチ改修工事 プール改築工事（H24→H25） 空調設備設置工事（H24→H25） 屋内運動場、渡り廊下大規模改造工事（H24→H25） 渡り廊下非構造部材耐震化工事（H24→H25）
鳩山幼稚園	空調設備設置工事（H24→H25）

② ICT機器を活用した教育環境の整備

平成 21 年度に電子黒板等の ICT機器の各学校への整備が図られ、引き続きこれらの機器を活用しました。

【評価】

①学校施設の改修・バリアフリー化の実施

学校施設の整備について、学校側からの要望等を聞き、補助事業で対応で

きるものについては積極的に活用して整備を行いたいと考えています。

② ICT機器を活用した教育環境の整備

引き続きこれらのICT機器をいかに活用し、教育効果を高めていくかが課題となっています。そのために、今後ともさまざまな教員の研修の機会を増やしていかなければならないと考えています。

(4) 家庭・地域社会と連携した教育の推進

①家庭教育支援体制の充実

今日、少子高齢化・国際化・高度情報化など子どもたちを取り巻く社会環境が急変しています。このような状況を踏まえ、「親や地域で子どものよさを更に伸ばそう 子育ての町鳩山を創ろう」をテーマに、幼児・児童・生徒を持つ保護者をはじめ町民を対象に子どもたちの健やかな成長を願い、小・中学校PTAを中心に町内の諸団体などで組織する「鳩山町親学講座実行委員会」が平成22年度に発足しました。

毎年実行委員会が主体的に企画・運営し、家庭・学校・地域・職場が相互に連携し、町民一人ひとりが子育てについて関心や意識を高め、地域を挙げて子育てに取り組む町鳩山の実現のため、親学講座を開設しました。

親学講座講演会の実施状況

日時	会場	講師	演題	主催	参加者
10/20(日) 14:00 ～16:00	鳩山町 文化会 館	ピアニスト辻井 伸行さんの母 辻井いつ子氏	「明るく、楽しく、 そしてあきらめな い生き方」	鳩山町親学 講座実行委 員会	317名

次に、家庭の教育力の向上を図るため、小・中学校や町立幼稚園とその保護者の協力により「親の学習講座」事業にも取り組みました。就学時健康診断や中学校入学予定者保護者説明会、中学校の家庭科の授業における中学生と乳幼児とのふれあい体験学習などを実施しました。指導者は「親の学習講座」事業指導者養成講座の修了者や埼玉県家庭教育アドバイザーに依頼し、事前の打合せ会などにより協議して、執務の割り振りを行いました。

特に、乳幼児と鳩山中学校生徒とのふれあい授業は、家庭科での「育児や幼児との接し方」の単元に基づく体験学習で、日頃乳幼児とふれあう機会の少ない中学生が、赤ちゃんのかわいさや命の大切さ、親への感謝の気持ちを育むことを目的に、平成19年度から社会教育委員が中心となって中学校、幼稚園、乳幼児を持つ保護者、埼玉県家庭教育アドバイザーなど多数の方々のご協力により充実した事業を継続して取り組んでいます。

これらの事業の成果としては、町民相互の交流を図り、各種活動への理解やふるさとを見つめる心を涵養することができ、また、親子のコミュニケーションの大切さ、家庭教育の重要性などについて改めて考える機会を提供できたものと捉えております。こうした生涯学習事業の取り組みが町の活性化に寄与できたものと考えています。

親の学習講座事業の実施状況

位置づけ	時期	会場	回数	テーマ	参加者	指導者
就学時健診	10月	各小学校	3回	元気に学校生活を送る	77名	3名
家庭科授業	7～10月	鳩山幼稚園	3回	乳幼児と生徒のふれあい	90名	41名
新入学説明会	1月	鳩山中学校	1回	思春期の心	112名	1名
合計			7回		279名	45名

②学校応援団活動の推進

家庭・地域社会との連携を図るために、PTA活動を拡大する形で21年度に全校で学校応援団が設置されました。平成22年度から年に2回の学校応援団コーディネーター会議を教育委員会が主催し、コーディネーターの横の情報連携を図る体制をつくりました。

③PTA等の各種諸団体との連携強化

私の家族・役割充実プラン（一人一役運動）

この施策は家庭の中で児童・生徒一人ひとりの所属感・自己有用感を高めるために施策として掲げたものです。このプランを具現化するために、校長会・教頭会での指示を通して学校単位での家庭への啓発を行いました。特に、長期休業中には各学校で発行するしおり等にも家庭の中での役割を持たせるようにとの働きかけが行われました。

【評価】

①家庭教育支援体制の充実

少子高齢化、情報化、国際化など社会情勢が急激に変化する今日、住民のニーズも多様化しています。地方自治体の財政状況も長引く景気低迷の影響を受け、住民サービスの維持に課題があります。こうした状況に対処するためには、行政と住民などが連携協力し、相互に知恵を出し合い、協働で事務事業を進めていくことも必要です。また、過去の成果や課題を踏まえ、常に創意工夫した取組や改善が不可欠です。

今後の生涯学習事業については、町民や各種のグループ・サークルが連携し、自ら実行委員会などを組織して主体的に取り組む方法も望ましいと考え

ています。

親の学習講座事業に関しては、少子化の中で、親子のコミュニケーションの大切さや家庭教育の重要性などについて、町民に改めて考える機会を提供できたものと認識しています。

親学講座は、平成 22 年度から継続し、町内の各種団体や組織の代表者で構成された実行委員会で講座内容や運営の役割分担などについて協議しました。鳩山町親学講座実行委員会の主催により講演会を 1 回開催しました。

参加者の多くが子育てや家族について講師の話に感動するとともに、「子どもを信じてほめる。一人ひとりの才能を育て、伸ばすことが大切であることを改めて認識しました」との感想や「辻井さんの前向きな生き方に感動しました。すばらしい講演会でした。今後も続けて欲しい」などの要望もありました。

各社会教育関係団体への支援については、関係法令等に基づき育成するとともに、活動状況を把握し、適時助言をしていくことも必要です。財政支援については、引き続き関係団体の活動実績を踏まえ、判断していく必要があります。

また、各社会教育施設や当該設備については、町民が安全に安心してご利用いただけるよう、日頃の適正な管理が大切であることは当然ですが、限られた財政(予算)の下では、課内で連絡調整し、修繕すべきところは優先順位を設けるなど計画的に進める必要があります。

②学校応援団活動の推進

学校応援団として町内の全校設置 3 年目となり、コーディネーターの方々の連携が進み、自主的な情報交換等も行われてきました。コーディネーターの方々も P T A 関係(経験者も含めて)からの選出が多く、小学校 3 校の児童が中学校 1 校へ進学する鳩山町ならではの連携が図れてきていると感じます。特に中学校でのコーディネーター 3 名(各小学校区より選出)という体制が有効に機能しています。課題としては、仕事を持たれている方々が多く県の研修等に参加できない場合が多いことです。

③ P T A 等の各種諸団体との連携強化

家庭の中での活動であるために、その実施についての客観的な評価を行うことが難しく、実際にどれくらいの児童・生徒が一人一役を実施したのかは定かではありません。また、家庭によっては、当然のことであるということで普段から取り組んでおりました。教育委員会として、重点施策の一つとしての位置づけを検討していきます。

(5) 生涯学習と生涯スポーツの振興

①多様な生涯学習の機会の提供と支援

あらゆる世代の町民の方に、学習の機会を提供すべく、各種講座を実施しました。

ア 世代別等講座

参加者の世代等を分けて開催することにより、情報を共有しやすくするようにしました。

No.	講座名	回数	募集人数	申込者数	参加延人数	内容
1	わんぱく学級	6回	30名	28名	129名	ミニ七夕飾りを作ろう 社会科見学 万華鏡の秘密を探ろう 魚の秘密を探ろう 食虫植物を見よう もちつきをしよう
2	寿大学	4回	定員なし	314名	638名	研修会、町外研修 町民の集い、ステージ発表
3	女性学級	5回	定員なし	41名	127名	町外研修、研修会、 健康体操、フラワーアレンジメント、視察研修
計			383名		894名	

イ 趣味・教養講座

同じ趣味を持ち、同じ目的を持つ者どおしの学習の場を持つことにより、お互いに高め合いながら、学習することができるようにしました。

No.	講座名	回数	募集人数	申込者数	参加延人数	内容
1	エンボス加工でクリスマスカードを作ろう教室	1回	5名	2名	2名	エンボス加工でオリジナルカードを作成
2	しめ飾り教室	1回	10名	3名	4名	しめ飾りの作成
3	桜のカードをかい てみよう	1回	5名	4名	4名	カリグラフィー用マーカーで桜のカードを作成
4	立体切り絵教室	6回	10名	8名	46名	季節を題材とした一回一作品の作成
5	パソコン相談会	6回	定員なし	随時来館	46名	パソコン操作の疑問に対応

6	陶芸入門教室	5回	10名	9名	39名	基本的な作陶を学ぶ
7	超初心者パソコン教室	10回	9名	14名	87名	超初心者がインターネット使用まで学ぶ
8	超初心者パソコン教室 フォローアップ講座	2回	9名	9名	18名	超初心者パソコン教室の 補習講座
9	超初心者パソコン教室サポ ーターフォローアップ講座	2回	3名	3名	6名	サポーター養成講習
計				52名	246名	

人権を尊重する教育の推進では、さまざまな人権問題を解決するため人権教育を系統的、計画的に推進し、人権教育・人権啓発事業に取り組みました。

主な人権教育推進事業では、小学生を対象とした「のびのび鳩山」（1～3年生）を6回、実施しました。「のびのび鳩山」の第2回学習会は、中央公民館主催の「わんぱく学級」（対象3～6年生）と合同で開催し、学習の環が広がりました。

「のびのび鳩山」では、児童が相互に協力し、町内の散策やものづくりを通して相互に協力し、豊かな心や思いやりの心を醸成するための体験学習の場を提供しました。

「季節の行事を体験することができ、楽しかった。また来年も参加したい」、「新しい友達も増えた」、「友達と一緒にできてよかった」などの感想がありました。

a のびのび鳩山

(単位：名)

回	日 時	会場	内 容	参加者数
1	6/29 (土) 9:00～11:30	石坂分館	ミニ七夕飾りを作ろう	41(54)
2	7/13 (土) 9:00～11:30	石坂集会所	篠鉄砲で遊ぼう	38
3	9/21 (土) 9:00～11:30	石坂集会所	ぶんぶんごまを作ろう	33
4	11/ 9 (土) 9:00～11:30	亀井運動場	高野倉を歩こう	12
5	12/14 (土) 9:00～11:30	中央公民館	クリスマス飾りを作ろう	30
6	1/18 (土) 9:00～11:30	農村公園	もちつきをしよう	37(56)

※ 参加者数の欄で、()内の数値は「わんぱく学級」の参加者数を含む

また、子どもの学ぶ力や生きる力を育み、地域の教育力を向上させるとともに、鳩山町と東京電機大学が連携し、大学の特色を生かした学習活動を提供するため、埼玉県教育委員会の支援をいただき、平成 25 年度新規に「子ども大学はとやま」を開設しました。町内在住の小学校 4～6 年生を対象に、前年度まで人権教育推進事業に位置づけて実施していた「子どもおもしろ科学館」をグレードアップして科学の実験や観察、施設見学を通して科学的なものの見方や考え方から優しさや思いやりの気持ちを醸成し、差別をしない人間形成に資する目的で、年間 6 回講義を実施しました。

参加者は毎回他校や異学年の仲間たちと協力して一生懸命学び合いました。参加者からは「夢が科学者なので、夢に一步近づけたと思います」や「埼玉が昔海であったことを初めて知った。長い年月をかけて出来上がったポットホールを見てすごいと思った」、「粘土でキャラクターを作るのは難しかったけれど、とても楽しかった」などの感想がありました。保護者からは、「毎回いろいろなことを教えていただき、学ぶことの大切さを実感したことが一番よかったです」と、「毎回学習内容が充実していて先生方も丁寧に教えていただいたのでよかったです」などの感想がありました。

今後も参加者や保護者の意見や要望を踏まえ、埼玉県教育委員会の支援をいただきながら、町と東京電機大学等で協議して子どもたちに学習の機会を提供していきたいと考えています。

なお、第 5 回講義は中央公民館主催の「わんぱく学級」(対象 3～6 年生)と合同で開催し、学習の環が広がりました。

b 子ども大学はとやま

(単位：名)

回	日 時	会 場	内 容	参加者数
1	5/25(土)9:00～11:30	東京電機大学	入学式 植物の無菌培養をしよう	25
2	6/ 8(土)9:00～11:30	石坂集会所	ブーメランを作ろう	26
3	8/ 1(木)9:00～15:30	長瀨町 県立自然の博物館	県立自然の博物館へ行こう	26
4	9/14(土)9:00～11:30	東京電機大学	みんな今日から作曲家!	26
5	10/26(土)9:00～11:30	石坂分館	魚の体のつくりを調べよう	18(30)
6	11/30(土)9:00～11:30	東京電機大学	楽しくクレイアニメをつくろう 修了証書授与式	27

※ 参加者数の欄で、()内の数値は「わんぱく学級」の参加者数を含む

男女共同参画社会の実現を目指し、「^{ひと}女と^{ひと}男の生き方学級」を開催しました。受講生の中から運営委員を募り、運営委員会で協議を重ね事業計画や年間テーマを定め、学級では運営委員が受付・司会・記録など役割分担しました。

運営委員会での協議の結果、年間テーマを「鳩山の歴史と自然」～鳩山を知ろう～ と定め、受講生は全5回の講座を熱心に学び、交流を深めました。

学習活動を通して、さまざまな人権問題を正しく理解し、一人ひとりが基本的人権を尊重してそれぞれの人権意識を高め、偏見や差別を解消するため、学習活動に取り組みました。

c 女と男の生き方学級

(単位：名)

回	期日	時間	内 容	会 場	参加者数
1	5/23 (木)	9:30~12:00	話し合い「あなたにとって鳩山とは」	石坂分館	19
2	7/22 (月)	9:30~15:00	鳩山と朝鮮半島の歴史的つながり	石坂集会所	24
3	9/24 (火)	9:30~12:00	高麗神社を訪れて朝鮮半島との関わりをみよう	日高市・高麗神社	30
4	11/26 (火)	9:30~12:00	鎌倉街道上道をさらに下り嵐山史跡の博物館へ	嵐山町・史跡の博物館ほか	21
5	2/25 (火)	9:30~12:00	植物上映「鳩山にやってきた植物」	町立図書館	17

研修会等では、教職員を対象とした「人権問題研修会」を、また、町民を対象とした「人権問題を考える町民の集い」をそれぞれ1回開催しました。「人権問題研修会」では、児童生徒の発達段階に応じた人権教育を推進するため、「児童虐待の現状と課題」と題した講演を教職員は熱心に学習し、充実した研修会になりました。

また、「人権問題を考える町民の集い」では、人権が尊重された社会づくりに向けて町民意識の高揚を図るため、鳩山中学校吹奏楽部の演奏によるオープニング、小・中学生の代表による人権作文の朗読発表、最後に「笑い的心情が人の輪を広げる」と題して講演がありました。

成果としては、人権教育推進事業や研修会等の開催により、さまざまな人権課題について町民一人ひとりがその現状を正しく理解する学習機会に参加され、自分自身の問題として自他を大切にすることを醸成することがで

きたのではないかと考えています。

今後もさまざまな人権課題の解決に向け、一人ひとりの人権意識の高揚を図るため人権教育・人権啓発に努めていきたいと考えています。

d 人権問題研修会等実施状況

(単位：名)

期 日	時 間	内 容	会 場	参加者数
8/20(火)	13:30~15:30	鳩山町人権問題研修会 講演：演題「児童虐待の現状と課題」 講師：埼玉県川越児童相談所副所長 遠藤 和幸氏	鳩山町役場	69
12/7(土)	9:30~12:00	鳩山町人権問題を考える町民の集い オープニング 鳩山中学校吹奏楽部の演奏 人権作文発表(小・中学生代表4名) 講演：演題 「笑いと人情が人の輪を広げる」 講師：林家 染二氏(落語家)	鳩山町文化会館	365

ウ 地域コミュニティー事業

学習の場を屋外に移し、日頃出会うことも少ないものがつどい、お互い励まし合いながら、自然を満喫し、つながりを構築する。もって、事後の学習仲間を得る機会を提供しました。

No.	講 座 名	回数	募集人数	申込者数	参加人数	内 容
1	春のハイキング	1回	28名	39名	28名	小仏城山(神奈川県相模原市)
2	夏のハイキング	1回	32名	38名	32名	霧ヶ峰(長野県茅野市)
計				77名	60名	

また、関係機関との連携により、下記の事業も行いました。

- (ア) 第56回鳩山町民体育祭(鳩中第2グラウンド) 10月6日 教育委員会と共催
- (イ) 第31回鳩山駅伝大会(鳩山町内) 12月1日 教育委員会と共催
- (ウ) 第40回正月マラソン大会(農村公園周辺) 1月3日 教育委員会と共催

エ 教育機関との連携事業

町内関係教育機関等と連携して、日頃の教育成果を、広く町民の方に向けていただけるように、発表の場を開催しました。

・はとやま幼児ふれあい絵画展（会場：文化会館ホワイエ）

開催日時	内 容	出 品 者	来場者数	前年度比
9月14日 9月15日 10:00～	年長園児絵画作品の展示	鳩山幼稚園 ひばり保育園 石坂幼稚園	620名	△5名

・ふれあい演奏会 2013（会場：文化会館ホール）

開催日時	内 容	出 演 者	来場者数	前年度比
10月1日 13:30～	各校単独演奏及び 合同演奏の三部構成	鳩山中学校吹奏楽部 東松山市立南中学校吹奏学部 毛呂山町立川角中学校吹奏学部	284名	△78名

②文化芸術活動の振興

地域の機関・文化芸術団体と連携を図り、発表の場や参加の機会の拡充を図りました。

ア はとやま大人バンドステージ（会場：文化会館ホール）

地域に密着した活動をしている、大人世代を中心としたアマチュアバンドが、「鳩山町をもっと元気に！」を合言葉に、みんなを元気づけました。

開催日時	内 容	出 演 者	来場者数	前年度比
2月2日 13:00～	鳩山在住、在勤の大人世代が 中心のアマチュアバンドに よるステージ	スイングストリングス はとやまバンド、ステージア ウッズ・アンド・ウォーター Hatoyama Heartbeat Band The Band//It、Harlequin	226名	56名

イ 第18回だれでもチャレンジステージ（会場：文化会館ホール）

町内で活動する文化団体等が、協力して実行委員会を編成し、文化会館を会場として、発表会を開催しました。

開催日時	内 容	出演者数	前年度比	来場者数	前年度比
9月15日 10:00～	吹奏楽、合唱、独唱、 ハーモニカ演奏、お囃子、 舞踊、ダンス、演舞 等	団体 19 個人 6	団体 0 個人 △2	577名	△5名

※主催：だれでもチャレンジステージ実行委員会 協力：教育委員会、中央公民館

ウ 第38回中央文化祭（会場：中央公民館ホール・ロビー、文化会館ホワイエ）
公民館利用者団体を中心に、町内地域住民の年間活動を一堂に展示する
ために、芸術文化の祭典を開催し、文化活動の向上と推進を図りました。

開催日	内 容	出品者・数	前年度比	来場者数	前年度比
11月1日 ～3日	絵画・生花・書道・編物・ 七宝焼・写真・俳句・ お茶席・盆栽など	団体 31 個人 1 976点	団体 0 個人 △2 △124点	450名	△50名

※中央文化祭実行委員会と共催

エ 第18回鳩山陶芸展（会場：文化会館ホワイエ）
陶芸活動を通して構築した創作群を一堂に展示することにより、地域文
化の向上と推進を図りました。

開催日	参加団体名	出品数	来場者数	前年度比
11月1日 ～3日	ひょう会・山吹会・なずな窯の会・ きんもくせい窯の会・釉遊会・ 陶芸倶楽部マスキー・陶芸入門教室・ 個人出品	111点	350名	△47名

※鳩山陶芸展実行委員会と共催

③スポーツの振興

「子どもから高齢者まで」といった生涯スポーツの原点に基づき、スポー
ツ少年団や体育協会並びにスポーツ推進委員・スポーツ振興委員協議会との
連携を図り、各種のスポーツ大会等を開催しスポーツ活動の振興を図りまし
た。

また、各競技部の主管による各種大会や講習会等も開催しています。

※主な大会と参加者数

大会名	参加者数
第28回グラウンドゴルフ大会（個人戦）	202名
第6回小学生グラウンドゴルフ大会	68名
第29回グラウンドゴルフ大会（団体戦）	32チーム（202名）
第56回鳩山町民体育祭	1,781名
第31回鳩山駅伝大会	45チーム
第40回正月マラソン大会	366名
第22回鳩山親善サッカー大会	16チーム
第31回鳩山町スポーツ少年団野球大会	16チーム
第7回近隣交流ミニバスケットボール大会	6チーム

体育協会及びスポーツ少年団加盟団体に対し、育成費を助成しました。また、各競技部の自主的活動に対し、本部としての活動支援も行いました。

種別	育成費支給団体数	育成費支給額
体育協会	15	704,850円
スポーツ少年団	6	701,800円

各競技部における技術指導だけではなく、「もしもの時の救命知識と対処方法」を学ぶため、第7回普通救命講習会を開催しました。スポーツの技術指導だけでなく、幅広い知識と対応できる力が必要だと考え企画しました。

種別	参加人数
体育協会	8名
スポーツ少年団	11名

スポーツ少年団指導者認定員講習会及び指導者研修会に参加し、新たな指導者の人材確保と更なる技術指導等の習得を図りました。

④地域の人材・専門家などの積極的な活用

地域の逸材的な人材や専門家の発掘に努め、新たな体力作りに活用するために施策として掲げたものです。このプランを具現化するために情報を集めました。情報不足などにより実際の活用に結びつけませんでした。

⑤文化施設・スポーツ施設等の整備・維持管理

スポーツ担当では、スポーツ施設等8箇所を管理しています。利用者

が常に快適に使用できるよう努めています。近年、施設の老朽化が著しく頻繁に補修並びに修繕を行っています。また、利用者から施設の改善等の要望により施設の整備を行っています。

⑥図書館サービス事業の推進

図書館では、利用者の多様な学習及び調査研究活動を支援することを目的として、インターネット端末が利用できる環境を整備しています。また、利用者の拡大を図るため、乳幼児を対象とした「すこやかブック事業」や未就学児を対象とする絵本を使ったお話と手遊びを実施する「うさぎちゃんのへや」、小学生まで児童を対象として本を使ったお話と紙工作をする「こどもおはなし会」を実施すると共に、これまで小・中学生に発行していた「図書館だより」に加えて保育園や幼稚園の園児を対象に新たに発行して、図書館行事や図書の案内を行い利用者の拡大を目指しました。

【評価】

①多様な生涯学習の機会の提供と支援

生涯学習の機会として、幅広い年代層の方々に、分野別、時には年代別にプログラムを提供して、多くの参加者を得ることができました。

特に、今年度は超初心者パソコン教室を取り入れ、町民の方の関心も高く、受講生にも高評価を得ることが出来ました。

今後とも、住民ニーズの把握に努め、多様化する嗜好に適合する講座等の開催を進めるとともに、学習意欲に富んだ方々の学習支援ができるよう努めていきます。

現在、私たちの身の回りには女性・子ども・高齢者・障がいのある人・外国人・同和問題などさまざまな人権問題があります。こうした問題を解決していくためには、一人ひとりが個別の問題を正しく理解し、お互いに相手を思いやり、偏見や差別を解消しようとする心を養うとともに、行動していくことが大切です。

社会教育分野における人権教育の取り組みについては、人権教育推進事業(「のびのび鳩山」、「子ども大学はとやま」、「女と男の生き方学級」)を通して参加者の人権意識が徐々に高まってきていると思われ、評価できますが、参加者は町民の一部であるため、今後もより多くの人々に学習への参加を呼びかけ、さまざまな人権課題の解決に努めていく必要があります。

また、研修会への参加についても団体や組織などに所属する一部の町民に限られるため、今後も広報活動に努め、人権教育・人権啓発の効果的な方策について見直し、粘り強く継続して取り組んでいくことが大切であると思われれます。

石坂集会所については、人権教育・人権啓発を推進するための拠点施設であると同時に、日頃から地域住民の集会施設として、また、町民の文化活動や相互交流のための施設として住民が利用されており、一定の評価はできると思われます。ただし、通常は無人の施設であるため、今後も施設設備の定期的な点検を励行し、町民が快適に利用できるよう、教育委員会で適正に管理運営していきたいと考えています。

②文化芸術活動の振興

地域で活躍・活動をしている団体等の日頃の成果を発表する場として、中央文化祭、鳩山陶芸展、だれでもチャレンジステージ、はとやま大人バンドステージを開催していますが、各参加者には、日頃の練習、創作活動の成果を披露できるということで、大変好評を博しているとともに、自分たちで盛り上げていこうとする、機運も見え始めました。

一方、課題も増えてきまして、特に、高年者を中心として創作活動にとっても意欲的な方が増えていますが、施設利用料の負担が次のステップへの足かせになっています。社会活動から自己実現へと移行していく中で、地域資源の需要が高まってきますので、今後は、創作意欲に富んだ方々の活動支援ができるよう協力していきます。

③スポーツの振興

「子どもから高齢者まで」といった生涯スポーツの原点に基づき、スポーツ少年団や体育協会並びにスポーツ推進委員・スポーツ振興委員協議会との連携を図り、各種のスポーツ大会等を開催しスポーツ活動の振興を図りました。

また、各競技部の主管による各種大会や講習会等も開催しています。

④地域の人材・専門家などの積極的な活用

地域の逸材的な人材や専門家の発掘のための情報収集不足により、新たな体力作りに活用することができませんでした。

今後は目標に沿い人材の掘り起こしに努め、地域の人材・専門家などの積極的な活用に結びつけたいと考えています。

⑤文化施設・スポーツ施設等の整備・維持管理

限られた予算の範囲内において、利用者からの要望などに沿うよう努力し維持・補修等に努めていますが、要望に追いつかないのが現状です。

しかし、厳しい予算内で優先順位をつけ、施設の維持管理に努めていきたいと考えています。

⑥図書館サービス事業の推進

図書館では、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、町民を主とする一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することが求められていることから、利用者の多様な学習及び調査研究活動を支援することを目的として、書籍や視聴覚資料の所蔵に加えインターネットが利用できる環境が整備してあります。今後も少子高齢化への対応や障がい者サービスの向上なども含め、多様化する住民ニーズに対応できるように一層のサービス向上に努めていきます。

(6) 文化の振興と文化財の保存・継承・活用の推進

①南比企窯跡群の国指定文化財への指定推進

南比企窯跡群の国指定史跡化に向け、次のような事業を実施しました。

ア 国分寺市との連携事業

- ・「市外文化財めぐりー武蔵国分寺の瓦生産地をめぐり、古代瓦を作る」

期日：8月3日 場所：農村公園内「まつぼっくり」

町教育委員会、東京都国分寺市教育委員会共催事業。鳩山町民18名と国分寺市民46名がボランティアの方々の指導の下、古代瓦作りをとおしての地域交流を図りました。

- ・「古代瓦作り体験」

期日：9月21日 場所：農村公園内「まつぼっくり」

中学生以上の町民を対象にした町教育委員会主催事業。ボランティアの指導の下、応募した13名の町民の方々が、瓦の製作を体験しました。

- ・「復元窯焼成実験」

期間：10月10日～27日 場所：まつぼっくり隣復元窯

町民製作の瓦60枚、国分寺市民製作の瓦122枚、瓦製作プロジェクトメンバー製作の瓦84枚。総計266枚を、19日午前9時から20日午前11時まで窯の火を止めることなく、最高1,100℃の中で焼成。焼成成功瓦147枚を得ました。また、焼成当日は、町外の10名を含む47名の方が見学に来られました。

- ・「国分寺瓦運上出発式」

期日：11月2日 場所：第34回「はとやま祭」会場

天平時代の瓦職人に見立てた衣裳を身にまとった10名の町民の方が、

幻想的な音楽とともにステージに上がり、運上目録を読み上げ、大勢の祭り参加者が見守る中、厳かに粛々と会場を後にし、運上出発の儀式を再現しました。

・「国分寺まつり 歴史行列」

期日：11月4日 場所：第30回「国分寺まつり」会場

天平、平安、鎌倉時代と続く歴史行列は、小雨が降り続くあいにくの天候の中でしたが、国分寺瓦運上隊に扮した町民の方10名が威風堂々としたパレード姿を披露しました。そして、メイン会場のステージで行われた「運上瓦引渡し式」で、鳩山の復元窯で焼成した瓦が引き渡されました。

イ 調査委託業務

指定候補地調査報告書作成に向け、「石田遺跡磁気探査業務」、「新沼窯跡出土品基礎整理業務」、「新沼窯跡測量調査業務」、「新沼窯跡土層観察業務」を実施いたしました。これらの成果を、平成27年度以降刊行予定の「新沼窯跡調査報告書（仮称）」、「石田遺跡調査報告書（仮称）」に反映させていきたいと考えております。

②各種文化財の調査研究

各種文化財の調査研究として、次のような事業を実施しました。

ア 町内遺跡の確認調査

各種開発に先立ち、確認調査（試掘調査）を随時実施し、遺跡の内容と範囲の把握を行いました。今年度は確認調査15か所、発掘調査を5箇所で行いました。

イ 出土品の再整理・再収納

昨年度に引き続き、過去の出土品のうち整理不十分な資料の再整理と再収納を行いました。

ウ 文書目録の作成

地域史料関係として近世～近代の諸家文書の目録の作成も、昨年度に引き続き行いました。

エ 埋蔵文化財調査報告書の刊行

平成23年度、24年度に国庫補助事業として実施した確認調査結果をまとめた、鳩山町埋蔵文化財調査報告第41集『町内遺跡12』を3月に刊行

いたしました。

③無形文化財の保存・継承

無形文化財の保存・継承として、町指定無形民俗文化財の保存団体に補助金を交付しました。

- ア 今宿八坂神社祭囃子保存会
- イ 泉井獅子舞保存会
- ウ 熊井囃子保存会

④多世代活動交流センター展示室の活用

展示室の活用として、次のような展示活動を行いました。

- ア 美術展示室の活用として、「町所蔵美術品展～版画で旅する古都～」を昨年度に引き続き開催し、町所蔵の美術品展の公開を行いました。
- イ 出土品展示室の活用として、南比企窯跡群の国指定史跡化へ向けた一助とすべく、文化財展「鳩山窯跡群～25年を過ぎて振り返る大発掘～」を今年度も引き続き開催しました。

⑤学校教育・生涯学習との連携

学校教育との連携として、小学校社会科見学を受け入れました。5月16日に、亀井小学校6年生15名と教諭2名の計17名、2月7日には、今宿小学校3年生41名と教諭2名の計43名の方に見学していただきました。

【評価】

①南比企窯跡群の国指定文化財への指定推進

年度途中で担当職員を交代させざるを得ないという緊急事案が発生しました。文化財保護行政が抱えております各種開発等への対応等を考えますと、今回の事案による国指定史跡化への遅れ等、影響があることは否めません。

そのような状況下でありまして、平成26年4月より新採用の文化財専門職員1名が新たに配置されました。このことを契機に体制を立て直してまいりたいと考えます。

②各種文化財の調査研究

各種文化財の調査研究は、出土品再整理や文書目録作成といった室内作業は概ね予定通り遂行できたものと考えられますが、各種開発に先立つ確認調査については、突発的な事案が大半であるうえに近年の景気動向から発生件数も多く、かなり厳しい状況で調整・対応しているのが実情です。専門職員の絶対的な不足を改善しない限り、現状は改善されないものと思われま

③無形文化財の保存・継承

無形文化財の保存・活用は、例年通り補助金交付という財政的な支援に止まりましたが、担当の抱える業務の量を考えますと致し方ないものと考えられます。

④多世代活動交流センター展示室の活用

多世代活動交流センター展示室の活用は、美術・出土品展示会ともに好評のうちに開催できたものと考えています。

⑤学校教育・生涯学習との連携

学校教育との連携は、これからの町の未来を担う子どもたちにふるさと文化財を知ってもらい良い場と考えます。積極的に受け入れてまいりたいと思います。

6 おわりに

教育委員会では、今までも教育行政の重点施策について、点検・評価を行い進めてまいりましたが、平成19年度から始まった学識経験者の知見を活用することにより、さらに目標に向けて努力することが必要であるとのことご意見もいただきました。

教育委員会では、今後とも外部評価委員のご意見・ご提言を真摯に受け止め、さらに研さんに努め、より効果的な教育行政の推進に努力してまいります。

学識経験者からの意見並びに提言

1 点検評価報告書に係る意見

(1) 安全・安心な食育活動の推進・給食センターの整備について

鳩山町学校給食センターでは、「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、朝食欠食児童等の減少に取り組むと共に、地場産の農産物を給食に取り入れ、食への関心を高めるため、給食集会などを行い、食への正しい情報を伝えるなど、一生懸命努力していることを評価します。

特に、「はとっ子給食レシピコンテスト」については、優秀作品を給食として具現化することは、児童・生徒の励みにもなり、食に関する意識の高揚が図られ、非常に感心しています。

また、新給食センターの建設については最新の衛生管理基準に適合した施設・設備への更新を望みますが、食器についても昔ながらの「アルマイト」ではなく、改善の努力をお願いしたい。

(2) 文化芸術活動の振興について

①限られた職員体制にもかかわらず、町民が日頃の練習、創作活動の成果を披露できる機会を設けた「だれでもチャレンジステージ」など、多くの事業を開催していることに感心しています。

②少子高齢化が顕著な町であるからこそ、心身共に健康なお年寄りが住みよい町にしていくことで、子育て世帯の若者も自然にこの町へ定着すると考えます。

このことから、高齢者の文化芸術活動などを推進していく上で、施設利用料の負担が次のステップへの足かせになっているため、施設利用料の減免制度を設けて欲しい。